

平成二十一年

大村町恵比須六月燈

大村町子ども会

劇「赤胴鈴之助」

≪ 配 役 ≫

鈴之助	裕大	瓦版屋	颯太郎
周作	晴之		
小百合	千花	女五人衆	
鬼面党			
お頭	由聖		
子分①	幸弘	⑤	なつみ
②	琳太郎	④	うらら
③	翔	③	円花
		②	里紗
		①	みのり
門下生		ナレーター	
①	朋甫	特別出演	隆登
②	歩夢		春成
③	秀栄		空音
④	匠平		生吹
⑤	匠馬	⑥	圭佑

【道具】 ○竹刀7本 ○袴9枚 ○道場の絵 ○瓦版たぐさん ○五条訓

【あらすじ】

父と死に別れた金野鈴之助は、千葉道場に預けられた剣豪少年だ。気は優しく力持ち。スクスクと成長してゆく。精進の甲斐あって、必殺技「真空斬り」を編み出す。父の形見の赤胴をいつも付けていたことから、「赤胴鈴之助」と呼ばれるようになった。

そんなある日、盗賊鬼面党が、人さらいや火付けをするようになり、これを退治しようと、鈴之助はひとりで立ち向かう。

《幕前》

みのり
(六人の未就学児は整列する)
礼。(六人とも一緒に礼をする)

これから、大村町子ども会の劇を始めます。その前に、来年から小学校に入学するお友だちに、自己紹介してもらいます。

隆登
(一歩前に出て)ぼくは、田原秀文の孫、田原秀太郎の長男、田原隆登です。
どうぞよろしくお願いします。

竜成
(一歩前に出て)ぼくは、時吉義男の孫、時吉一博の三男、時吉竜成です。
どうぞよろしくお願いします。

春音
(一歩前に出て)わたしは、有川成美の孫、若杉賢の次女、若杉春音です。
どうぞよろしくお願いします。

空
(一歩前に出て)ぼくは、北原宏の孫、北原光治の長男、北原空です。どうぞ、よろしくお願いします。

圭佑
(一歩前に出て)ぼくは、宮脇十吉の孫、宮脇忠弘の三男、宮脇圭介です。
どうぞよろしくお願いします。

生吹
(一歩前に出て)ぼくは、寺園芳行の孫、寺園進太の長男、寺園生吹です。
どうぞよろしくお願いします。

みのり
今年の劇は「赤胴鈴之助」です。真空斬りしんくうぎりはいつ炸裂さくれつするのでしょうか。
今年も一生懸命練習しました。どうぞご覧下さい。礼。
(幕間から消える)

《第一幕》

(朋甫、步夢、秀栄、匠平、匠馬の五人、千葉道場で剣道の稽古をしている)(上手から周作登場)

周作 稽古、止めー。

(五人座って整列)

匠馬 千葉周作先生に、礼！

(全員、深々と礼をする)

周作 千葉道場五条訓。

(五人、舞台前に整列する)

歩夢 (一歩前に出て)ひとつ、心明鏡にして、諸行の実相を写し、心位正し

きを得れば、即ち、惑うことなし！

朋甫 (一歩前に出て)ひとつ、態端正にして、心形一如なる態位正しきを得れ

ば、即ち、侮られることなし。

秀栄 (一歩前に出て)ひとつ、氣充溢して、精氣丹田に発し、氣位正しきを得れ

ば、即ち、脅かされることなし。

匠平 (一歩前に出て)ひとつ、行実践するに、倫理正道の行位正しきを得れば、

即ち、常道を誤ることなし。

匠馬 (一歩前に出て)ひとつ、技応変に転位し、適応自在の技位正しきを得れば、

即ち、制されることなし。

(五人、元の位置に正座)

周作 剣の道は心の道。ただ強いだけでは、邪剣というものだ。技の上達には、

人としての心が備わっておらねばならぬ。しかと心に刻み、精進いたせ。

五人 ははーっ。(礼をする)

周作 今日はお主達に紹介したい者がいる。鈴之助これへ。

鈴之助 はっ。(上手から登場)

周作 この少年は、金野鈴之助という。今日からお主達の仲間じゃ。

鈴之助 金野鈴之助と申します。よろしくお願ひします。

歩 夢 鈴之助君、なぜ赤胴を付けているの。

鈴之助 はい、これは亡き父の形見です。

朋 甫 鈴之助君、剣術、強いのか？

鈴之助 いえ。まだ修行中の身です。

秀 栄 先生、鈴之助君と立ち会わせて下さい。

匠 平 ぼくも立ち会わせて下さい。

匠 馬 先生ぼくも。

周 作 鈴之助。皆がこのように申しておる。立ちおうてみるか。

鈴之助 はい。先生の仰せとあらば。

周 作 皆のもの。一斉にかかれ。

五人 はいっ。(五人一斉にかかるが呆気なく負ける)

五人 強い。強すぎる。赤胴、鈴之助だ！

(鈴之助十五人正座する)

周 作 今日の稽古はこれで終わる。鈴之助は残れ。

鈴之助 はい。

匠 馬 千葉周作先生に、礼。

六 人 有り難うございました！

(五人は下手に消える)

周 作 鈴之助、竹刀を取れ。

鈴之助 はい。

(二人が相まみえる)

(鈴之助が動く)やーっ。

(周作のけぞる)

周作 見事じゃ。この技、「真空斬り」と名付けるがいい。

鈴之助 (正座して) 「真空斬り」……。ありがとうございます。

《幕前》

(鈴之助と小百合ちゃん登場)

小百合 鈴之助さん。千葉道場に慣れた？

鈴之助 はい。先生も素晴らしい方だし、仲間もいい人ばかり。

小百合 困ったことがあったら、何でも相談してね。力になるわ。

鈴之助 小百合ちゃん、いつもやさしくしてくれて有り難う。

(二人、幕間から消える)

《第二幕》

(女衆十未就学児、遊んでいる。鬼は里紗)

女衆 「かーごめ、かごめ、かごの中の鳥はいついつ出やる。夜明けの晩に鶴と亀と滑った。後ろの正面、だーれ」

里紗 なっちゃん！

円花 残念でした。私でした。里紗ちゃん、また鬼よ。

女衆 「かーごめ、かごめくくくくくくくくくく」

里紗 今度はねくく。うららちゃん。

琴音 あたりー。今度は、うららちゃん、鬼よ。

「かごめ、かごめくくく」

(颯太郎、花道を駆けて登場)

颯太郎 かわら版だ。かわら版だ。鬼面党きめんとうが出たぞ！

(女衆、遊びを止めて)

うらら かわら版頂戴。

円花 私にも頂戴。

なつみ 私にも。

里紗 私にも。

(颯太郎、客席も配る。「サンキュー」と大きな声で言つて、去る)

なつみ 鬼面党が人さらいしたらしいわよ。身代金を取ったんだつて。

里紗 その前は押し込みを働いて、越後屋さんは一家皆殺しだつて。

円花 白木屋さんに、火付けもしたらしいわよ。

琴音 お役人は何をしているのかしら。

うらら 怖いわ。鬼面党を早く捕まえて欲しいわね。

《幕を閉じる Ⅱ 幕前》

(鬼面党、下手より登場)

幸弘 お頭、この大村町で一商売しましょうか。

由聖 そうじゃな。手っ取り早く、人さらい、身代金を稼ぐとするか。

琳太郎 そういえば、裏山で、子ども達が遊んでいましたぜ。

翔 一把ひとからげで、五十両は下らない。いい話だ。

由聖 では、取りかかるとするか。野郎共、ぬかるんじゃねえぞ。

子分共 合点だ！

(幕間から消える。舞台上で「声」が響く)

幸弘 俺たちは鬼面党だ。おとなしくしろ！

里紗 きゃくく。何をするの、離して。

円花 誰か助けてく。鬼面党よ！

うらら おかあさくん！

由 聖 静かにしろ。騒ぐと痛い目に合うぞ。

(由聖と幸弘、幕前に入る)

幸 弘 あっしは、これから子どもの親から身代金をせしめてきます。

由 聖 おう、頼んだぞ。

(幸弘は下手へ。由聖は幕間へ消える)

(鈴之助は下手から。周作と小百合は上手から出てくる)

周 作 鈴之助、鬼面党が五人の女の子をさらって、身代金を要求しておく。

鈴之助 先生、私を行かせてください。

小百合 鈴之助さん、ひとりで大丈夫？

鈴之助 小百合ちゃん、大丈夫だよ。

周 作 鈴之助、鬼面党は手強い相手だ。気を抜くでないぞ。ただ、悪人と言えども、斬ってはならぬ。峰打ちにして、捕らえるのだ。

鈴之助 はい、分かりました。では、行って参ります。

小百合 鈴之助さん、これ。気をつけてね。(鉢巻きを渡す)

《第三幕》

由 聖 (女衆五人、縛られて座っている。その廻りを鬼面党が囲んでいる)
(女衆に向かって)おい、てめえ達の親は金を出そうとしない。てめえ達がいたんじゃ足手まといになる。死んでもらおうか。(女衆「キャーッ」)

鈴之助 待てー。鬼面党、悪事は許さんぞ！

幸 弘 何だ、てめえは。

鈴之助 その五人を取り返しに来た。

由 聖 何？取り返すだど？しやらくさい、おい、この小僧を可愛がってやれ！。

(翔、琳太郎とやっつける)

由 聖 こしやく 小癩こしやくな小僧め。名を名乗れ！

鈴之助 赤胴、鈴之助だ！

幸 弘 何？赤胴だと。笑わせやがる。おい、かかれ。

(四人で、じりじりと鈴之助を攻める。鈴之助、刀を返して峰打ち体制に入る)(ここで、伝家の宝刀「真空斬り」が炸裂する)(四人吹っ飛ぶ)(鈴之助は五人の縄をほどく。これを見ていた千葉道場門下生が出てきて、四人を竹刀で叩き、縛り上げる)

五人衆 鈴之助ちゃん、やったー。

女 衆 鈴之助さん、ありがとうございます。

(五人衆と女衆、前に出てきて)(全員で万歳三唱)

女 衆 これから鈴之助さんの頑張りを感謝し、万歳三唱を行います。会場の皆さんもご唱和お願いします。

赤胴鈴之助さん、ばんざーい。ばんざーい。ばんざーい。

《急いで幕》

《整列して全員自己紹介》

《終わり》